

視覚障害サポート・ 盲導犬受け入れセミナーを開催



(注) 盲導犬のハーネスを外し、特別な許可をいただき犬に触れています。仕事時の盲導犬には触らないようにしてください

2002年に施行された身体障害者補助犬法では、盲導犬・介助犬・聴導犬といった補助犬の同伴の受け入れをあらゆる施設で義務づけています。当院でも以前より補助犬の受け入れを行っていますが、医療機関の中には感染管理などの問題から補助犬の受け入れをためらう施設もあるといえます。

そこで、12月11日(火)『医療者向け視覚障害サポート・盲導犬受け入れセミナー』を行いました。亀田グループの医療・介護従事者ほか、院内サービス施設のスタッフ60人が受講し、視覚障害サポートのあり方や補助犬への理解を深めました。

セミナーの前半では、公益財団法人「日本盲導犬協会」普及推進部 リーダーの安保美佳様、同神奈川訓練センター センター長の山口義之様より盲導犬に関する基礎知識から衛生面や排泄の問題まで実演を交えて幅広く教えていただきました。後半では、盲導犬ユーザーで視覚障害を持つ碓谷純子様より病院にかかった際に「困ったな」と感じた事などを具体的な事例を挙げてお話いただきました。

セミナーを終え、受講者からは「これからは盲導犬を連れた方にきちんと対応できると思う」「視覚障がいを持つ方への声掛けのコツが分かった。次は自信を持って声掛けをしたい」などの感想が聞かれました。

お願い 入院中の履き物について

入院中は慣れない環境、あるいは活動の減少にとともに、足の筋力が低下して転倒してしまう患者さまが多くいらっしゃいます。

そのため、普段から履き慣れた運動靴など、かかとつきのものをご用意くださいますようお願いいたします。なお、スリッパやサンダルは脱げやすく、摩擦が強いとつまずきやすいため、当院では禁止とさせていただきます。



インフルエンザ対策強化に ご協力をお願いします

院内でインフルエンザの流行を起こさないため、当院では3月31日までの期間中、下記のとおりインフルエンザ対策強化を実施しています。(なお、対策強化期間は流行状況により変更する場合があります)

■入院(予定)患者さまへの対策

⇒入院時に、Kタワー1階ロビーにて、インフルエンザの症状がないか確認を行います

⇒入院中の外出・外泊は原則禁止いたします

■(患者さまのご家族を含む)面会者への対策

⇒熱・咳・下痢・嘔吐などの症状がある場合、面会はできません。また、中学生以下のお子さまの面会は原則お断りいたします

⇒病棟へ立ち入る前に、毎回スタッフが健康状態の確認をさせていただきます。病棟に入る際は、手を消毒し、マスクを着用ください

入院患者さまやそのご家族、面会者の皆様にはご不便をお掛けいたしますが、何卒ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

+ 応急手当講座のご案内 +



“いざという時”に備えて、応急手当の知識と技術を学んでみませんか?

2月23日(土)午前9時から開催される「応急手当講座」では、当院の院内インストラクターが講師となり、心肺蘇生法やAEDの使い方、窒息時の対応の講義・実技を行います。中学生以上の方であればどなたでもご参加いただけます。ぜひお問い合わせの上、ご参加ください。

■日時：2月23日(土)午前9時～12時

■会場：亀田総合病院 継続学習センター 研修室

■定員：20名

■受講料：1,000円(学生割引500円、資料代・材料費含む)

■申込方法：郵便ハガキまたはFAX、Eメールにて、
①氏名(フリガナ) ②年齢 ③性別 ④郵便番号 ⑤住所
⑥電話番号を添えてお申し込みください。

※個人情報厳守いたします。

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

亀田総合病院 継続学習センター 応急手当 係

FAX：04-7099-1195、Eメール：keigaku@kameda.jp

■準備するもの：動きやすい服装と靴、筆記用具



第9話 女性に多い排便のトラブル

はじめに

これまでの話から排便のトラブルにもいろいろな状態があることがわかりました。ここで皆さんの周りでこれら排便のトラブルでお困りの方を思い出してみてください。女性が多いことに気づきませんか？今回はその理由を解説していきます。

なぜ女性に多いのか？

原因としては、①骨盤内の構造の違い、②女性ホルモン、③妊娠・出産、④意識・趣向の違いが挙げられます。

骨盤の構造の違い

男女の骨盤の構造をみるとその違いは歴然です！女性の肛門直腸のすぐ近くには膣という空洞があるため、男性に比べて周囲の支えが元来弱いことがわかります。このため出産や長年にわたる強いいきみによってこの直腸が引き伸ばされると直腸瘤（ちよくちようりゅう）と呼ばれるポケット状のものができてそこに便がたまり、便がうまく出せない原因となります。（図1）

ホルモンによる影響

女性ホルモンによる影響です。10代～40才代の女性では排卵から月経までの期間や妊娠中は女性ホルモンの1つであるプロゲステロンの分泌が多くなります（図2）。プロゲステロンは腸管のぜん動運動をおさえる働きがあるため食べたものが糞便として出るまでの時間が長くなる、便中の水分の吸収が多くなり便が硬くなったりします。逆に50才代以降の方ではエストロゲンの低下とともに内肛門括約筋など細い筋肉から筋

力低下が生じ、無意識に便が漏れる、漏出性便失禁が起こりやすくなります。

妊娠・出産による影響

妊娠中は前項のホルモンの影響やつわりによる食事摂取量低下もあり便秘になりやすくなります。また出産後は授乳で水分不足になり、便が硬くなり便秘を訴える方もいます。また、出産時に肛門括約筋に傷がつく、一時的な肛門周囲の感覚低下により便の我慢ができづらい切迫性便失禁を起こすことがあります。

意識・趣向の違い

女性の方は皆さん健康意識が高い傾向にあります。特にテレビなど「〇〇が健康にいい」と聞くと一つの食品を集中してとる傾向にあります。スムージー、ヨーグルト、青汁などは便を軟化させるため便失禁を悪化させることがあります。逆に芋、きのこ、ゴボウなど根菜類を摂りすぎると便が硬くなり便秘の症状を呈することになります。

図1 男女の骨盤内構造

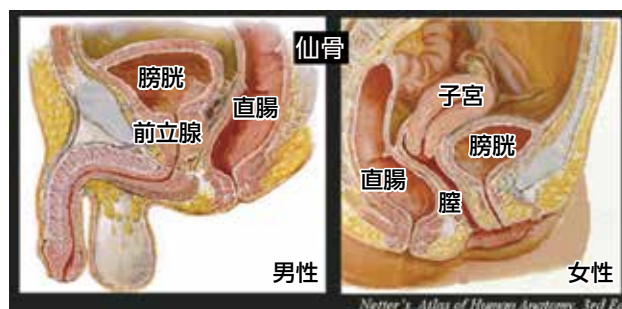


図2 月経周期と女性ホルモンの関係



医師紹介

むらかみ
村上

がく
楽 医師



- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言

- ①小児科
- ②離島総合診療
- ③サーフィン、登山
- ④丁寧な診療を心掛けます



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>